

平成30年度 第42回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

女 e

女子 準決勝

会場 キッコーマンアリーナ

チーム名	総得点		総得点	チーム名																		
白梅学園	20	<table border="1"> <tr><td>11</td><td>—</td><td>8</td></tr> <tr><td>9</td><td>—</td><td>6</td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7mTC</td><td></td><td></td></tr> </table>	11	—	8	9	—	6	—			—			—			7mTC			14	那覇西
11	—	8																				
9	—	6																				
—																						
—																						
—																						
7mTC																						

女子準決勝 1 試合目は、白梅学園 7 番伊藤のゴールで幕を上げた。那覇西も 10 番仲眞のサイドシュートで取り返すも、その後は白梅学園の4：2DF のプレスなどで那覇西にミスが出る間に手渡しパスなどのトリッキーなプレーで得点を重ねた白梅学園のペースで試合が進んだ。5-1と白梅学園 4 点リードの 12 分過ぎ、流れを変えたい那覇西はタイムアウトを請求。その後白梅学園が 10 分間無得点の間に那覇西は 13 番上地汐、9 番喜納、4 番久場川らで 6 連続得点し逆転に成功。しかし焦る様子のない白梅学園は、落ち着いたプレーで 4 番小宮山、7 番伊藤、2 番高橋らで 4 連続得点し再逆転。11-8で前半を終えた。

後半は 10 分過ぎまでスローペースで進んだ。15 分過ぎには那覇西 GK 仲宗根のナイスセーブからの速攻など見せ場を作ったが、白梅学園 GK 木村もナイスセーブを見せ、流れを渡さなかった。白梅学園 5 番大谷の体を張ったルーズボールなど、DF でも隙を見せなかった。手渡しパスなどトリッキーなプレーで魅せた白梅学園が決勝へと駒を進めた。

31年 3月 28日

記載者氏名 福田 元

平成30年度 第42回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男 e

男子 準決勝

会場 キッコーマンアリーナ

チーム名	総得点		総得点	チーム名
高岡向陵	<u>28</u>	[25	北陸
		18	14	
		10	11	
		—		
		—		
		—		
		—		
		7mTC		

男子準決勝、北陸対高岡向陵の試合は高岡向陵中村のステップシュートから開幕となる。

前半序盤、北陸藤坂、谷口のミドルシュート、高岡向陵は村藤のサイドシュートや中村のミドルシュートを中心に攻撃を展開し一進一退の攻防が続く。その後高岡向陵が一瞬の間をついたミドルシュートで3点連取し、北陸が初めてのタイムアウトを申請する。ここから点差を縮めたい北陸だが高岡向陵塚本の好セーブから速攻に持ち込まれ点差が徐々にひらき始める。この流れを維持したい高岡向陵だが、北陸の7人攻撃やポストを使った攻撃に得点を許してしまい前半終了時18対14で折り返す。

後半開始、北陸は4-2ディフェンスを展開し高い位置からシュートを打たせ徐々にペースを掴む。また北陸藤坂の豊富な運動量から得点を重ね点差が縮まっていく。残り5分を切ったところで北陸谷口のミドルシュートが決まり1点差まで追いつく。すかさず高岡向陵が最後のタイムカードを使い切る。その後高岡向陵七部、村藤、金岡のシュートが決まり3点差に開き、結局28対25で高岡向陵が明日最終試合を迎える。

31年 3月 27日

記載者氏名 水野 恭宏

平成30年度 第42回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男f

男子 準決勝

会場 キッコーマンアリーナ

チーム名	総得点		総得点	チーム名																		
香川中央	26	<table border="1"> <tr> <td>15</td> <td>—</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>—</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td colspan="3">7mTC</td> </tr> </table>	15	—	8	11	—	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7mTC			18	不来方
15	—	8																				
11	—	10																				
—	—	—																				
—	—	—																				
—	—	—																				
7mTC																						

男子準決勝第2試合は、香川中央7番木太の豪快なミドルシュートで始まった。序盤から、運動量豊富なDFから速攻や、7番木太のミドルシュートなどで得点を重ね、香川中央ペースで試合が進んだ。一方の不来方はなかなかリズムに乗れないなかでも、相手の退場中に連続得点するなど、辛抱強く戦い、前半は15-8香川中央リードで折り返した。後半は不来方6番海老子川、5番釜石、11番村上の連続得点でスタートした。香川中央も8番谷のカットイン、2番山下のミドルシュートなどで得点。21-13となった10分過ぎに不来方がタイムアウト。流れを変えたい不来方だったが、逆に香川中央GK大道のナイスセーブから速攻を決められてしまう。終始自分たちのペースで試合を進めた香川中央が26-19で不来方を破り、決勝へ進んだ。

31年 3月 28日

記載者氏名 福田 元